

自由討論

演説 1 について

津田 艦載機移駐問題が起きるまでは傍観者であった。行政は間違っただけと信じていたからである。艦載機移駐やヘリ 2 機と兵員 60 人の移駐問題で、防衛庁職員が「アメリカには戦争で負けたので強く言えない。」と答えた。それ以降、行政を信頼できなくなった。対米交渉力がないのは在日米軍の軍事力の存在が、のど元に刃物を突き付けられていると思うようになった。そのことは、前泊博盛著の「本当は憲法よりも大切な「日米地位協定入門」」にも書かれている。某大手新聞の記者は「政府も、アメリカに戦争で負けたから」と言っている。自衛隊については国防も必要との声もあり意見が二分している。

＊本当は憲法よりも大切な「日米地位協定入門」 前泊博盛著（前出）

河井 自衛隊を国防軍にしよう、と言った人がいるそうですが、それは憲法にかかわる問題だ、ということですね。

津田 自衛隊の存在は、それを職業としている人がいる以上、なくせない。中国の強硬姿勢は、自民党や安倍の国防論に拍車をかける、都合のよい状況にある。

稲生 いま政治家がだめ。そんな政治家を選びだす人の問題もある。議員の資質の問題もある。

井原 政治とか政治家とか政党がうまく働いていない。資質も。意図とか、誰のために働いているのか、そういうところからして、われわれのために働いていない。何のために政治があるのか、考えると、今の政治は役にたっていないということになる。それをどう解決するか。どこまでどう変えていくか。原点までかえって、民主主義でわれわれが選んでいるが、本当にきちんと選んでいるのか。選挙制度でも選び方がかわるのですが、どんな選挙制度にしてもわれわれの意志がきちんと反映されて、民主主義の原点にかえって、代表がちゃんと選ばれている、そういう選び方をしているのか。そういう意識になっているのか。そこから議論したいと私も思う。

稲生 安保論議も、「政治家がだらしなかったから」で終わっている。だらしないというか、考えが甘い。そういう政治家を擁護して出している国民がだらしない。

井原 原発にしても日米同盟にしても、われわれに大切な問題にたいして、徹底議論しても、納得して全員が一致するわけではないのですが、議論してひとつの方向性を選んでいける政治になっていたら文句はいえないと思う。そういう信頼ができるとおもうんです。それができてないところが、いろんな大きな問題がおきていますが、進んでいる道が間違っているんじゃないかと思う。とんでもないところに行っているのではないかと不安にさせられます。意思形成の根底の部分ではできてないという感じです。そこから私は考えていきたい。

河井 津田さんの発言はかなり具体的な発言で、つまりいまは基地をアメリカの自由な管理にあずけているけれども、これを日本の管理にもどす、それによってかなり改善されるところがあるんじゃないか、という発言だった。

津田 ひとつは管制権、あれがもどるだけでも、随分ちがう。

河井 具体的にひとつのターゲットとして、これぐらいならなんとかなるかもしれない、そういう問題提起だとおもう。

津田 ただ、十分考えて議論してまとめてないと、それなら米軍はおってもいいのかという話になる。よっぽどしっかりした議論をしておかないと。

河井 基地問題を全部いっぺんに解決しようとしてもできないから、まず第一段階として基地を日本の管理にもどす、という政策なら、通る可能性がないとはいえない。そういう意味で興味深く思う。〈もちろん「米軍がずっといてもいい」ということにすることは許されない〉。

藤川 いま憲法 96 条を変えようとしているが、「各議院の総議員の三分の二以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない」という条項を改訂して、憲法改正が楽にやれるようにと安倍総理は考えているようですが、それでは憲法をどんどん改訂することができるので、私は 96 条をかえることはやっつけにはいけないと考える。憲法 9 条で専守防衛というのが日本の考えかたですから、専守防衛のなかで国を守る、そのために自衛隊が国を守るということなら私は賛成だ。そうすると、集団的自衛権は必要ない。となると自分の国に外国の強力な軍事力があるということは、脅威にかんずる。

津田 長年、世界第二位の防衛費を使って、自国だけで防衛できない理由がわからない。

それに対して、記者は「国は、日本は人件費が高いから装備にまわらないとっている」と言っている。マスコミもそこは疑問として、聞くことはきいていると感じた。

藤川 日本の軍事力はすばらしいもので、北朝鮮や中国よりすばらしい。専守防衛という、戦争しないということを堅持すべきだと思います。

南部 たしかに今の自衛隊は中途半端だと思う。私も同意見で、十分な軍事力をもっていると思う。人がどうかということは問題があるかもしれないが、自主防衛に徹するのなら、アメリカに頼らなくてもいいんじゃないかと思う。それぐらいの気概をもつべきではないか。国防軍と名前をかえるというくだらない話ではなくて、自主的に考えていくと考えれば、当然戦力もち、それを維持していくことも必要ではないか。ただ、今の状態をみていると、アメリカのいいなりになって、戦闘機をかわされる。非常に腹がたつのですが、タンク、戦車、いま日本にどれくらいあると思います？ 800 両以上あるのですよ。なんで専守防衛の日本に必要なのか。誰も言わない。防衛費の性格を考えれば十分にやっつけいけるのではないか。

桑野 アメリカは、冷戦時はソ連、ソ連崩壊後は中国を仮想敵国として、防衛態勢を築いてきた。しかし米国が一番恐れているのは、実はそれらの国ではなく日本ではないか？ 第二次大戦で早期に降伏したイタリア・ドイツと違って、切腹の文化を持つ日本は最後まで徹底抗戦をするだろう。その結果すべてを塵芥に帰してしまえば、終戦後には、米国の補助工場として日本を利用したい米国にとっては大きな損失になる。そういう戦略に基づいて原爆を使って早期終戦へ導いた。

日本を監視するために基地がいる。日本を超大国にさせないために金をださせる。更に、

日本に勝手なことをさせないために、首相は日本を不沈空母に使ってくれといった中曽根や、小泉のような親米でなければ、すぐに首を切る。親米でない鳩山や菅、さらに小沢などは政治家としての足場さえなくなっている。米国に頼っているのではなく、監視されているのではないか？

演説 2 ついて

津田 高速増殖炉もんじゅの温度計の事故は、疲労破壊で振動解析をしていなかった。耐震性や振動解析は計器など細かいところはチェック出来ていないし、出来ないだろう。定期修理の非破壊検査も被曝で作業時間が制約されるため、次々に人が交替しながら行うので検査精度の問題がある。蒸発器は細長いパイプを支持板で支えているが、支持板とパイプの隙間が腐食生成物で固着されると固有振動数が変わり振動してギロチン破断する。

いまの原発は、安全の観点からみて停止することは全くしない。一号機は作動していた冷却装置をとじてしまったが、そういうことはしてはいけない。二号機は、ちがう冷却装置。そこに問題がある。40年ぐらいまえに作動している。その後やっていない。アメリカは3年に1回やっている。日本は定期点検はまったくやっていなかった。

稲生 いま議論をしなければならないのは、原発をつづけていかなないということである。そこのところを議論しておかねばならない。危険きわまりないのに、まだ経済の問題と雇用の問題と、安全の問題をてんびんにかけている、人命と経済は一緒に考えられないはずだ。

南部 原発は全停電に対し、フェールセーフ(絶対安全側に作動する)になっていなかった。化学装置に比べ、脆弱であった。1号機は作動した(安全装置の)冷却機を手動で停止と起動をくり返していた。(最後の安全装置を手動操作してはならないのは常識)。1号機と2号機の緊急冷却装置のシステムが異なっている。そこが問題だ。操作員が複数の異なったシステムを操作させるのは根本的に間違っている。(安全に対する考え方に、組織的な欠陥があった)。

津田 原発が危険だと、原発を運転する人がでてこなくなる。NHKが言っていたが、操作員がするいことがないのなら、帰らせてくれといった。それが撤退論につながっていったのだろう。

南部 そうそう、そんな議論もあった。700人も詰めこまれていたようだ。

津田 責任者が土下座して残ってもらったが、その直後に水素爆発がおきた。

河井 事故をおこさないで運転できるなら、原発はつかっていいのか。<無事故なら、まだ処理方法がわからない放射性物質を、果てしなく製造してもいいのか>。

藤川 日本は世界に3番目に原発がある。日本は大陸棚の端っこにあって、地震がくるのは当然です。地震で原発がこわれることもある。津波によって電気系統がやられたら、冷却できないから爆発した。原発はすべて再稼動してはいけないという思いだ。電気が足りないというが、小出先生は原発の規模とおなじだけの火力発電所があるという。

<日本の電力生産の30%は原発でまかなってきた、といわれている。2011.03.11以降、

原発定期修理に入り、全ての原発の稼働が停止した。しかし、国内の電力不足による停電はおきなかった。地震直後の（3.11）において、関東地区（東京電力）の計画停電は、既存の火力発電設備が地震により設備の被害があり、稼働できなかったことによるものであり、設備の修理が完了した後は、計画的停電・瞬間停電も発生していない。これは、原発のバックアップとして、火力発電が果たしている証拠である。また、国民が節電したとしても、30%を節電できるはずがない。節電目標は5~10%であったと記憶しています。以上のことから、原発のバックアップ電源は火力発電であることが証明されている。原発は安定電源でない。1年稼働すれば定期修理がある。また、設備の故障によるシャットダウンのように、緊急停止が日常茶飯事の発電設備であることも、認識しておかなければと思います。>

火力発電、水力発電、自然力発電でまかなえる。原発をうごかせば火力発電がいらなから、電力は安い。しかし安全を考えれば原発を動かしてはいけない。われわれが省エネすればいい。放射能はながくいきているものですから、それを使うようなことをしてはいけない。六ヶ所村では使用済み燃料を処理できない。自分は原発の仕事をして、全く悪いことをしたなと思う。

桑野 いろんな面で生産コストがあがる。コスト高で、解雇の危機があるかもしれない、そういうことを含めて、覚悟ができるかどうか。

稲生 石炭から石油にかわってきたからといって、経済の論理と危険の論理と同じレベルで考えたら、それはおかしなことになる。

藤川 企業側に都合のいい数字でやってくる。ある程度数字のわかる政治家が必要だ。

津田 さっき南部さんの話に、小水力発電のことがあった。それをやっている。それでまかなっていた。設備の老朽化かなにかでやめた。電力会社が買い取らんという問題かもしれない。

南部 メガソーラをあちこちでつくっています。それでいいと思う。ソフトバンクは、民家の屋根を利用するといっている。まだまだいろんな可能性がある。日本人はそれを上手に活用する知恵や技術を持っている。ばかにしちゃいけない。原発はいらな。いかに電力を安くするかという問題提起をしたら、ワーストとやっていく。それにたいして政府がどれくらい補助を出すかを考えてくれれば、ドンドン進むと思う。しかし原発再稼働ということで政府がやっていけば、そういうものはつぶされてしまう。

（発言中 < > 内の部分は文書化の段階で補足追加したもの）

今後の検討課題

自由討論における発言のなかで、「市民自らの政策」として、今後に残された検討課題を整理すると、以下の諸点があげられます。これは次回以後の討論課題になります。

1 演説 1 の関係

- ①戦争は反対だが、自衛隊員の立場を考えると、自衛隊の存在を否定するわけにもいかない。専守防衛の自衛隊は必要。しかし自衛隊を認めれば戦争を認めることになるのではないか。
- ②米軍基地の管理権は日本にもどし、自衛隊に管理させる。だがそれでは米軍の日本駐留を認めることになる。
- ③安保、日米地位協定をくわしく検討する必要がある。
- ④政治・政治家、政党がうまく機能していない。いい政治家を選び出す方策はないか。政治家の資質と役割を問いたい。
- ⑤アメリカは日本をおそれているから、基地を維持しようとしている。

2 演説 2 の関係

- ①原発の要不要の結論を、人命と経済を天秤にかけて、引き出すことができるか。
- ②小水力発電など、自然エネルギーを開発する方向で検討する。
- ③使用済み核燃料の処理技術はまだない。
- ④原発の経済性と危険性を同じレベルで考えられるか。
- ⑤使用済み核燃料を安全な状態に処理することができないのに、原発の運転を続けることができるか。

以上の検討課題も含めて、今後の個人演説会を企画していきたい。その場合、個人演説と自由討論について、次のようなルールを約束しておく必要がある。

- 1 一般に会議での発言は断片的な意見になることが多い。個人演説では、言いたいことをみんな言ってもらって、考えの全体像がわかるようにする。
- 2 組織や政党に入っている人の場合、団体の考え方を優先して、自分の考え方を控える傾向がある。それでは本当の自分の考えはでてこないの、自分自身の考えを率直に述べて頂く。
- 3 議論中、一番大事なことは何かはわからなくなり、目的意識が別のところに移ってしまうことが多い。最も大事なことは何かを忘れないようにしなければならない。
- 4 現在の自分の考えが間違っているかもしれない。自分の意見を押し通そうとするだけでなく、他の人の考えも聞いてみようという構えも必要である。
- 5 議論して、意見が違うことがわかったところで会議が終わることが多い。一致できる答えが見つかるまで、とことん話し合うことが必要だろう。
- 6 ひとりひとりの意見のなかに、何か新しい重要な考えがないか、探していく努力をしたい。

この会合の発言はなるべく録音し、文字化して、読み直し、考え直すための資料に使えるようにするので、大いに活用していただきたい。